

# 再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課  
担当課長名：本田 武志

事業名	東武鉄道伊勢崎線（とうきょうスカイツリー駅 <small>えき</small> 付近）		事業区分	連続立体交差	事業主体	墨田区
起終点	自：墨田区押上二丁目 至：墨田区向島一丁目				延長	0.9km
事業概要	東武鉄道伊勢崎線の曳舟駅～とうきょうスカイツリー駅間約0.9kmにおいて鉄道を高架化することにより、1箇所のボトルネック踏切（伊勢崎線第2号踏切）と1箇所の既存立体交差往路（言問通り）を拡幅し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。					
平成29年度事業化	平成27年度都市計画決定	用地買収無し			平成29年度工事着手	
全体事業費	313億円		事業進捗率	— %	供用済延長	0 km
計画交通量	54,838 台時/日（踏切交通遮断量）					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4  (残事業) —	総費用 (事業全体) 236億円 事業費：236億円 維持管理費：—億円	総便益 (事業全体) 324億円 移動時間短縮便益 312億円 走行経費減少便益：13億円 交通事故減少便益：-0.4億円	基準年 平成28年		
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C=—～—（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=—～—（交通量±10%） 事業費：B/C=—～—（事業費±10%） 事業費：B/C=—～—（事業費±10%） 事業期間：B/C=—～—（事業期間±20%） 事業期間：B/C=—～—（事業期間±20%）					
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボトルネック踏切の除却により、渋滞及び踏切事故のリスクを解消する</li> <li>・踏切除却に併せ鉄道を高架化することにより、南北の地域分断を解消する。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見	—					
事業評価監視委員会の意見	—					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	—					
事業の進捗状況、残事業の内容等	—					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	—					
施設の構造や工法の変更等	—					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。